



収納家具・物品棚

●収納家具、物品棚などが使用中または地震の際などに倒れると「大けが」のもとになります。

所定の条件をこえる収納家具は、転倒を防止するための対策が必要です。転倒防止工事の一例を図1に示します。転倒防止工事は、ご購入された販売店へお申し付けください。

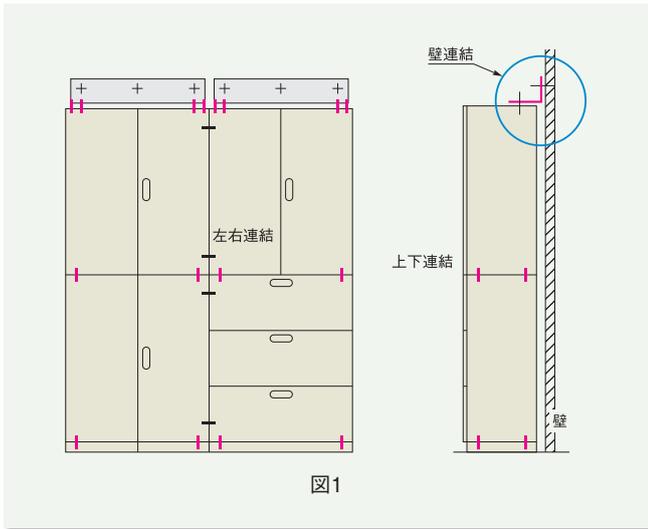


図1

■収納家具の安定性の目安

JOIFA(日本オフィス家具協会)発行のオフィス環境スタンダードでは、日本のオフィスにおける標準的な転倒防止対策の要否判断の目安として次の判別式を掲載しています。

$$\text{判別式: } B/\sqrt{H} \leq 4$$

B:家具の底辺の短辺(奥行または幅の短い方の寸法)単位cm
H:家具の高さ寸法 単位cm

判別式4以下のものは、転倒しやすいといわれています。この場合、なんらかの転倒防止対策が必要と思われます。

(※この判別式は家具の重心位置が中央にあると仮定したものです。判別式4以上であっても、収納物の入れ方によっては重心が大きく変わり、転倒する可能性もあります。)

●耐火庫用収納庫、マルチドックのレイアウト制限について

☆単体で使用せず、必ず両面を収納庫で連結してご使用ください。また、2連結まで横並び可能ですが、その際は上置きは不可となります。

●ラテラルファイリングキャビネットの転倒防止について

☆ラテラルファイリングキャビネットは、単体で使用せず、必ず背合せもしくは横連結してご使用ください。やむをえず単体でご使用になる場合は、引出しを引き出したとき前方に倒れることを防ぐため、前記判別式の計算結果のいかににかかわらず、転倒防止対策をする必要があります。

転倒防止には次の3通りの方法があります。

- 1.安定ベースを取り付ける。(図2参照)
- 2.壁と連結固定する。(図3参照)
- 3.床に固定する。(図4参照)

設置場所により適する方法を選択してください。

☆ラテラルファイリングキャビネットは横連結した際も、同時に2つ以上の引出しを引き出さないでください。

引出しを引き出した状態で引出し前板に体重をかけると転倒の恐れがあります。

☆ラテラルファイリングキャビネットを積み重ね設置する場合、絶対に上段には設置しないでください。(図5参照)

☆ラテラルファイリングキャビネットはハイベースの上に設置しないでください。

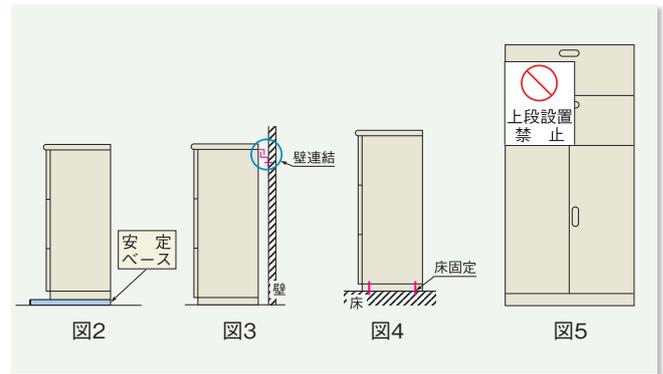


図2

図3

図4

図5

●ファイリングキャビネットの転倒防止について

☆ファイリングキャビネットの引出しを引き出したとき、前方に倒れることを防ぐため、前記判別式の計算結果のいかににかかわらず、転倒防止対策をすることをお勧めします。

- 1.単体設置する場合には安定荷重板を追加取り付けする。(図6参照)
- 2.2つを横に並べて設置する場合には隣同士のキャビネットを連結する。(図7参照)

☆ファイリングキャビネットは、絶対に積み重ね設置しないでください。(図8参照)

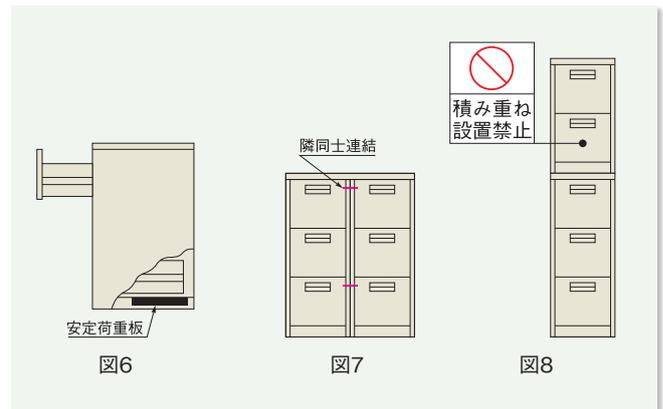


図6

図7

図8